



地域資源に 磨きをかけて

今年には強い行動制限なく感染拡大を抑制し、社会経済活動と両立するという、コロナ禍となって初めての夏でした。オミクロン株の性質が分かってきたことや濃厚接触者が急増すると社会経済活動に影響が大きいことなどから、濃厚接触者となった

場合の対応や陽性者の退院基準を緩和して早く社会復帰できるようにするなど、以前と比べて対応も変わってきています。しかし、どうしても活動が盛んになれば感染者も増える傾向の中、感染者数だけで一喜一憂すべきではないと考えながらも、あらためて感染対策と社会経済活動の両立でのバランスの取り方、その難しさも感じるところです。

また先月、県内においてもオミクロン株の新たな派生型B.A.2.75(ケンタウロス)への感染者が確認されましたが、現在主流のB.A.5より感染が広まりやすいとの見方も出ている一方で、今後B.A.2.75への置き換わりが進む可能性もあり、

第7波の流行の長期化も考えられます。引き続き一人ひとりの基本的な感染防止対策の徹底とオミクロン株に対応した新たな2価ワクチンを待つことなく、3、4回目接種の検討をお願いするとともに、心と体の健康を保つためにも生活にさまざまな工夫を加えてみてください。

話は変わり、9月の第3月曜日は敬老の日です。国民の祝日に関する法律では多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日と定められています。敬老の日は、祖父母や両親、恩師など人生の先輩を敬い、感謝の気持ちとともに長寿のお祝いをする日です。普段なかなか言えない気持ちを敬老の日に伝えてみましょう。

うれしいことに最近では、匝瑳市内の見どころやイベントなどがメディアや雑誌などで取り上げられていることも多くなり、ここにしかない匝瑳市のポテンシャルを感じます。また市内の城郭を活用した地域おこし活動なども活性化しています。さらに10月からはプロモーション活動に地域おこし協力隊のメンバーも加わる予定で、この流れをさらに加速させてまいりますので乞うご期待と申し添え結びとさせていただきます。

吉崎を歩く 干拓の陰で

匝瑳探訪
196

黄金田の広がる干潟八万石は実りの時を迎えました。「樺の海」の干拓から350年、『海上町史』や『旭市史』などからその歴史を知ると、農民たちはまさに「水との闘い」だったと強く感じます。

江戸町人による樺海干拓計画がさまざまな問題を抱える中、幕府の許可が下りた1670(寛文10)年工事が始められました。

樺海湖水は井戸野、仁玉両村(ともに旭市)の間に短期間で掘られた排水路を古川に合流させ、吉崎浜まで流す計画でした。同年11月21日、突然放水され大きな被害となりました。

見通しが甘く工事を急いだのでしょうか。流れ出た水は堀割を乗り越え津波のように流域の村々を襲いました。市域では「小笹(東小笹)村と吉崎村」の2カ村と周辺5カ村(いずれも旭市)の被害状況を伝える具体的な記録はないとされますが、「家は流され、田畑は砂に埋まり、逃げ遅れた水のみ込まれた行方不明者は数えきれないほどいた」とされます。

この工事失敗による被害はその後も拡大し、樺海の南に位置する下郷13カ村は翌1671(寛文



新川下流付近の様子

11)年春の苗代作りの頃には用水が無く、村の代表が困窮の様子を幕府に訴えました。しかし、効果的な対策はなくその年の秋の収穫はありませんでした。特に被害が大きかった井戸野、仁玉両村ではこのままでは餓死してしまおう、と再度幕府に訴えるありさまでした。市域2カ村がこの苦難の時をどう乗り越えたのか残念ながら記録が残っていません。

樺海の干拓工事は難題を乗り越え続行され、周囲にため池とそれを結び、総堀が造られ用排水対策が取られました。開発請負人や普請奉行の代官交代や資金不足などには幕府の援助も必要となりました。

新川河口付近の吉崎地区でも川に沿って黄金田が広がっています。この辺りが濁流にのみ込まれたのだから、と思いをはせました。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

関秘書課広報聴班

☎73・0080

文芸コーナー

短歌

依知川雅一推薦

其処此処に激しき雨の映像に

恐き覚えし気候の異常

糸を張る去年のクモは親子づれ

しばらくしてしたあいさつのあり

亡骸となりても温き父抱き

姉と帰りし朝靄の中

下灘の夕陽眺めに四国まで

ゆっくりゆっくり陽は落ちるなり

川口沼一面に咲くアヤメ見て

介護の人と見事さ語る

庭に咲く青、白、ピンクの紫陽花を

遠く離れた夫の墓前に

娘からクラフトビール月山の

届きて夫と夏を味わう

川口城司推薦

気がつけば夏の休みか窓近く

近隣の子等の声はづみをり

夏バテに高級餌を与えたら

カリカリ餌は食い渋るネコ

大木 洋一

桑原 宏子

木下 昌子

内藤喜代美

川手 芳

鈴木 知子

伊藤 英子

稲葉 雪子

石田 治

俳句

椿 和枝推薦

目覚めたる音喜雨と知る安堵かな

初ひぐらしまっすぐに雨降っている

出払うてひとりの座敷渡御の宵

猛暑中誕生の子も父となり

接種後のストップウォッチ夏の雲

球場に黙祷の声終戦日

草刈や汗の眼に沁む涙かな

母が集のインクの匂いになみだする

草取り機稲株巻くもただ進む

川柳

勝又康之推薦

浜遊び食べる前座の西瓜割り

露地西瓜伸びて伸びてかくれんぼ

スイカ割り上司が浮かび力こめ

井戸水で冷やした西瓜昭和の日

楽しみは冷えたスイカにかき氷

西瓜泥ゲーム感覚罰少し

カットスイカ後期高齢二食分

梅雨明けの昔カミナリ合図あり

おいまだかスマホ片手にトイレ出ず

アベ蓋が外れ中身が見えた夏

岩井 やす

大川 宜子

椎名 晴江

安藤 建子

佐々木ゆき子

山崎智恵子

伊橋 勝利

春日 政彦

石田 健

土屋 秀雄

岡田けい子

力作募集中

宛先：匝瑳市秘書課広報広聴班 〒2289-2198 匝瑳市八日市場ハ793番地2
☎73-0080 FAX72-1114

図書館だより

匝瑳市八日市場図書館 ☎73-3746 (17時まで)

- 休館日…毎週月曜日、1日(木)、20日(火)
- 祝日開館日…23日(金)

もしものときに備えて

八日市場図書館の背の高い書架には、上から1段目と2段目に本の落下防止装置が取り付けられています。この装置は、震度4以上の揺れを感知したときに作動し、高いところから本が落下するのを防ぎます。
※地震が起きたら、書架から離れ、身の安全を確保してください。

新着案内配信サービス

書名や著者名など、キーワードをあらかじめ登録しておく、その条件に合った新着図書を毎週水曜日にメールでお知らせします。

利用には、パスワードの登録など、八日市場図書館の窓口で手続きが必要です。詳しくは、図書館ホームページをご覧ください。

認知症に関する本の展示

9月は世界アルツハイマー月間、9月21日は世界アルツハイマーデーです。症状の理解や介護方法、予防など認知症に関する本を展示していますので、ぜひ手に取ってみてください。

図書館ホームページはこちら
<https://www.library.sosa.chiba.jp>



おすすめの本

『なぜ、認知症の人は家に帰りたがるのか』

恩蔵絢子・永島徹／著 中央法規出版

家族や介護者が「なぜ？」と思う認知症の人の行動を、34の事例を取り上げ、その理由を脳科学の視点から解説しています。認知症の人の気持ちに沿った適切な接し方が分かります。

『ぼけますから、よろしくお願ひします。おかえりお母さん』

信友直子／著 新潮社

認知症発症後、脳梗塞で入院した90歳の母に、変わらぬ愛を注ぐ98歳の父。夫婦の絆を、同名ドキュメンタリー映画を監督・撮影した著者がつづります。